



郷小だより

学校教育目標 ～支えあう・聴きあう・学びあう～

子どもたちが自分を再発見し、友だちを再発見し、学ぶことの価値と意味を再発見して「人生最高の6年間」を生み出す学校、そして、その営みを通して教師も親もともに育ちあう学びの共同体としての学校でありたい。

2月4日は立春です。厳しい寒さが続いておりますが、春の到来を思わせるような暖かな日差しを感じる日もみられるようになりました。学校の桜の木も、小さな固いつぼみをつけ始め、春の訪れを待ちわびているかのようです。これからの2ヶ月間は、一年間の学習のまとめを行い、1年生から5年生は次の学年に、6年生は進学をする準備を行う大切な時期となります。冬の寒さに耐えながら若い芽をつけ、次の開花に向けて頑張っている草木のように、次年度に向けてしっかりと準備をしてほしいと思います。



さて、1月25日に新入生保護者説明会を行いました。会のはじめの挨拶の中で以下のお話をしました。



『突然ではありますが、お子様を抱きしめていますか。子どもを抱きしめるという行為は、親の温もりと愛情を子どもに伝え、双方の幸福感を高め、不安やストレスを軽減させるそうです。また、「大好きだよ」「大切に思っているよ」など、親から伝わる無条件の肯定的な言葉によって、子どもは自らの価値や存在意義を肯定できるようになり、自己肯定感が上がることにつながります。是非、お子様が小学校へ入学した後も、抱きしめ、肯定的な言葉かけをお願いします。』

子どもの成長とともに接し方は変わっていくものと考えますが、皆様はどうお考えでしょうか。小学生のうち子どもを抱きしめ肯定的な言葉かけをしていただきたいと思います。子どもたちは、うまくいかないことなどがあると落ち込んだり、かんしゃくを起こしたり、自分に自信がもてなくなったりします。そんな時に「失敗してもやり直せばいいんだよ。どんなあなたも大好きだよ」と言葉をかけ、抱きしめてあげることで、安心感とともに子どもたちの前向きな気持ちを引き出すことができるのではないのでしょうか。

1月26日に、4年生が学習してきた成果を発表する「当たり前祭り」を開催しました。各学級から選ばれた実行委員を中心に練習を重ね、学級ごとの合奏、学年全体での詩の朗読と合唱を行い、素敵な演奏や歌声を体育館一杯に響かせました。体育館の後ろから見ていて、素晴らしい歌声や演奏と同じくらい印象に残ったのが、違う学級の演奏を聴く姿です。4年生一人ひとりの姿から、「しっかり聴く」という思いとともに、互いに認めあい高めあう関係を感じました。

